



ロケーションとマップを設定する

- [ロケーションとマップ \(1 ページ\)](#)
- [ロケーションのインポート \(5 ページ\)](#)
- [ネットワークマップの追加 \(19 ページ\)](#)
- [デジタルマップの追加 \(21 ページ\)](#)

ロケーションとマップ

Cisco Spaces のロケーションとマップ機能を使用すると、Cisco Meraki、Catalyst Center、Cisco Prime Infrastructure などさまざまなソースからのネットワーク階層をインポートし、正規化して、単一のビジネス指向のロケーション階層に統合できます。この機能をプラットフォームとして使用して、ネットワーク階層構造を標準化し、標準化されたロケーション階層ビューを提供します。

ネットワークソースからインポート/同期してロケーション階層を作成する従来の方法とは別に、Microsoft Excel (.xlsx) ファイルからビジネス中心の階層を作成する新しいオプションが含まれています。Microsoft Excel (.xlsx) ファイルのインポートでは、複数のロケーションのメタデータ情報を一括で追加/更新できます。

Cisco Spaces はネットワーク階層に一致する論理的なロケーション階層を作成しますが、ほとんどの Cisco Spaces ユーザーには、分類法や、異なるチーム/人物によって管理されるため、階層/名前が異なるソースがもう 1 つあります。ロケーションとマップ機能を使用すると、ビジネス指向の階層を作成し、さまざまなネットワークソースの階層をビジネス階層にマージ/統合して、クリーンな統合階層にすることができます。これにより、さまざまな成果の管理に役立ちます。

物理的なビジネスロケーションとネットワーク展開に基づいて、ビジネスロケーションをインポートし、Cisco Spaces 内で整理できます。階層は、特定のブランド、地域、キャンパス、およびビジネスに関連するその他の分類に基づいてまとめることができます。

Cisco Spaces のロケーションとマップ機能は、IT ネットワークビューをビジネスビューに変換し、よりビジネス関連のインサイトレポートを表示するのに役立ちます。ネットワークトポロジへの変更は Cisco Spaces に自動的に反映されるため、管理が容易になります。

[ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウには次のタブがあります。

- **ロケーション (Locations)** : このタブを使用して、ロケーションを追加または管理します。
- **ネットワークマップ (Network Maps)** : このタブを使用してネットワークマップを追加します。
- **デジタルマップ (Digital Maps)** : このタブを使用して、デジタルマップを追加または管理します。

これらのタブで使用できる [フィルタ (Filter)] オプションを使用して [フィルタ (Filter)] スライドインウィンドウを開き、フィルタオプションを選択してロケーションデータを適用して表示します。

図 1: ロケーションとマップ

Locations and Maps

Locations Network Maps Digital Maps

Import Your Locations

Import your locations enables you to organize your locations view within Cisco Spaces based on your physical business locations and network deployments. You can organize the hierarchy based on specific brands, regions, campuses and other taxonomies that are relevant for your business.

By translating your IT network view into a business view, you are automatically presented with a cleaner business relevant insights report. Any changes to your network topology are automatically reflected here thereby making it easy to manage.

[Get started](#)

Summary

0 Buildings

0 Floors

Buildings [Export](#) [Recent Activity](#) [+ Import Locations](#)

ロケーションタブ

[ロケーション (Locations)] タブの [サマリー (Summary)] セクションには、建物とフロアの数が表示されます。[ロケーション (Locations)] タブの [建物 (Buildings)] セクションには、インポートされたロケーションに関連する次の情報が表示されます。

- 名前
- パス

- フロア数
- ソース
- 必須ロケーション情報

次のタスクを実行します。

- [ロケーションの検索 (Search Locations)] フィールドに建物名を入力し、指定した建物情報をフィルタ処理します。
- ロケーションデータをエクスポートするには、[エクスポート (Export)] をクリックします。[ダウンロード (Download)] をクリックすると、同じものをダウンロードできます。
- [最近のアクティビティ (Recent Activity)] をクリックして [最近のアクティビティ (Recent Activity)] ウィンドウを開き、最近のアクティビティの詳細を表示します。
- [ロケーションのインポート (Import Locations)] をクリックして、ロケーションをインポートします。詳細については、[ロケーションのインポート \(5 ページ\)](#) を参照してください。

ネットワークマップタブ

[ネットワークマップ (Network Maps)] タブには、インポートされたロケーション情報も表示されます。[ネットワークマップ (Network Maps)] タブの [建物 (Buildings)] セクションには、インポートされたロケーションに関連する次の情報が表示されます。

- 名前
- パス
- フロア数
- APの数
- 送信元
- ネットワークマップのステータス

次のタスクを実行します。

- [ロケーションの検索 (Search Locations)] フィールドに建物名を入力し、指定した建物情報をフィルタ処理します。
- [最近のアクティビティ (Recent Activity)] をクリックして [最近のアクティビティ (Recent Activity)] ウィンドウを開き、最近のアクティビティの詳細を表示します。
- [ネットワークマップの追加 (Add Network Map)] をクリックして、ネットワークマップを追加します。詳細については、「[ネットワークマップの追加 \(19 ページ\)](#)」を参照してください。

デジタルマップタブ

[デジタルマップ (Digital Maps)]タブには、インポートされたロケーション情報も表示されます。

[建物 (Buildings)]セクションは[デジタルマップ (Digital Maps)]タブにあり、インポートされたロケーションに関連する次の情報が表示されます。

- 名前
- パス
- フロア数
- APの数
- ステータス
- アクション

次のタスクを実行します。

- [ロケーションの検索 (Search Locations)]フィールドに建物名を入力し、指定した建物情報をフィルタ処理します。
- [最近のアクティビティ (Recent Activity)]をクリックして[最近のアクティビティ (Recent Activity)]ウィンドウを開き、最近のアクティビティの詳細を表示します。
- [アクション (Actions)]列の [デジタルマップの追加 (Add Network Map)]をクリックして、デジタルマップを追加します。詳細については、[デジタルマップの追加 \(21 ページ\)](#)を参照してください。
- また、[アクション (Actions)]列の [CADファイルのアップロード (Upload CAD File)]をクリックして、選択したロケーションにデジタルマップを追加することもできます。

デジタルマップ：ユーザー体験の強化

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

- [フロアの選択 (Select Floor)]ウィンドウは、ユーザーの労力を最小限に抑えるように再設計されました。新しい設計では、ユーザーが必要とするエントリの数が減り、各フロアのフロアレベル番号と短縮名が自動的に生成されるため、プロセスがより迅速かつ効率的になります。
- ファイルアップロードプロセスが強化され、効率が向上しました。複数のフロアのファイルを同時にアップロードし、それぞれを並行して処理できるようになりました。以前は1つのフロアのアップロード中に表示されていたフルページローダーが、各フロア用の個々のローダーインジケータに置き換えられ、各アップロードのステータスを明確に表示できるようになりました。

いずれかのフロアファイルにさらに時間が必要な場合は、他のアップロードの進行に影響を与えずに、その特定のアップロードをキャンセルするオプションがあります。これによ

り、正常なアップロードの管理が改善され、より効果的な時間割り当てが可能になります。

- **推定時間と電子メール通知を使用するマップ処理ステータスレポート**：マップ処理機能が強化され、マップ生成に時間のかかる場合に報告された問題に対処しました。この機能強化により、マップを正常に送信すると、ウィンドウで推定処理時間が表示されます。[Digital Maps] リストビューで各建物のステータスメッセージにカーソルを合わせることで、暫定的な ETA やエラーの詳細を含む処理ステータスを表示することもできます。さらに、送信者はマップステータスの変更に関する電子メール通知を受け取ります。
- **マップの再処理/CAD ファイルの再送信**：マップの再処理の使用方法が強化され、必要な変更を正確に指定できる機能が追加されました。これにより、ターンアラウンド時間を短縮できます。一般的な理由のリストから選択し、再処理要求の証拠として補足ドキュメントまたは画像とともに追加のコメントを指定できます。

ネットワークマップのキャリブレーション

ネットワークマップのキャリブレーションツールを使用すると、2D ネットワークマップ画像と 3D デジタルマップを正確に配置できます。[Digital Map Editor] からツールにアクセスして、クライアントとアクセスポイントの位置が正確に表示されるように、GPS マーカーを正確に配置できます。

ネットワーク マップ キャリブレーション リンクは、ネットワークマップに関連付けられているマップに対してのみユーザーインターフェイスで有効になります。

ロケーションのインポート

[ロケーション (Locations)] タブを使用して、ビジネス階層をインポートします。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

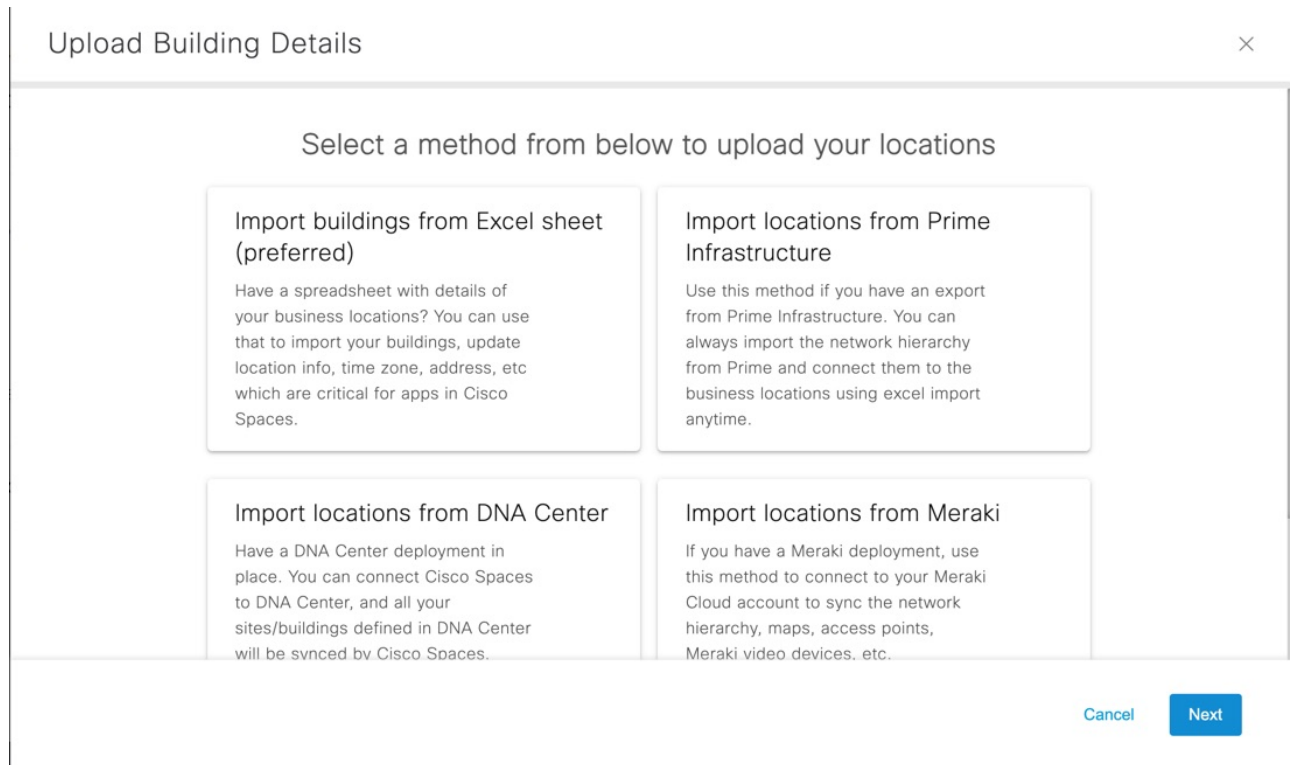
ステップ 2 Cisco Spaces ダッシュボードで、[メニュー (Menu)] アイコン (☰) をクリックし、[セットアップ (Setup)] > [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] を選択します。

[ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウは、[ロケーション (Locations)] タブが選択された状態で表示されます。使用可能なその他のタブは [ネットワークマップ (Network Maps)] および [デジタルマップ (Digital Maps)] です。

ステップ 3 [ロケーション (Locations)] タブで、[ロケーションの追加 (Add Locations)] をクリックします。ロケーションがすでにインポートされ利用可能な場合は、[ロケーションのインポート (Import Locations)] オプションが表示されます。

[建物の詳細のアップロード (Upload Building Details)] ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。

図 2: 建物の詳細をアップロード



ステップ 4 次の方法を使用してロケーションをインポートします。

- [Excel シートからの建物のインポート](#) (推奨)
- [Cisco Prime Infrastructure からロケーションをインポート](#)
- [Catalyst Center からロケーションをインポート](#)
- [Cisco Meraki からロケーションをインポート](#)
- [手動によるロケーションの追加](#)

インポートされたロケーションの詳細が、[ロケーション (Locations)] タブに表示されます。

- [サマリー (Summary)] セクションには、建物、フロア、欠落しているロケーションメタデータ情報、および確認が必要なロケーションの詳細が表示されます。
- [ロケーション (Locations)] タブの [建物 (Building)] セクションには、名前、パス、フロア数、送信元などのロケーションの詳細が表示されます。
- 必要なロケーションメタデータが更新されていない場合、[建物 (Building)] セクションの [必須ロケーション情報 (Essential Location Info)] フィールドにアラートが表示されます。

ステップ 5 [必須ロケーション情報 (Essential Location Info)] フィールドの [アラート (Alert)] アイコン (🚨) をクリックして、必要に応じて不足しているメタデータを追加します。

ポップアップウィンドウには、欠落しているロケーションメタデータに関連する情報が表示されます。[ここをクリック (Click Here)] をクリックしてロケーション情報を更新してください。

ステップ 6 [確認 (Review)] をクリックして、ロケーションレビューを表示し、続行します。詳細については、「[ロケーションを確認](#)」を参照してください。

Excel シートから建物をインポートする以外の方法を使用してロケーションをインポートすると、[確認 (Review)] オプションが表示されます。

ステップ 7 (オプション) [ロケーション (Locations)] タブで、必要に応じて次のオプションを使用します。

- **エクスポート (Export)** : インポートされたビジネスロケーションの詳細を Microsoft Excel ファイル (.xls) にエクスポートします。[ダウンロード (Download)] をクリックすると、同じものをダウンロードできます。
- [最近のアクティビティ (Recent Activity)] : クリックすると、最近のアクティビティの詳細が表示されます。ウィンドウの [最近のアクティビティ (Recent Activity)] スライドには、アクティビティの最近の履歴が表示されます。
 - ファイル名
 - ユーザ
 - タイプ
 - 時間
 - ステータス
- [フィルタ (Filter)] : クリックしてフィルタオプションを表示します。表示される [フィルタ (Filter)] スライドインウィンドウで、[ロケーション (Locations)] ドロップダウンリストからロケーションを選択し、必要なフィルタオプションを選択し、[適用 (Apply)] をクリックします。フィルタオプションは、[送信元 (Source)]、[フロア数 (# of Floors)]、および [ロケーションメタデータ (Location Metadata)] です。

Microsoft Excel シートからの建物のインポート

Microsoft Excel (.xlsx) ファイルをインポートしてロケーションを追加するには、[Excelシートから建物をインポート (Import buildings from Excel sheet)] オプションを使用します。Cisco Spaces アプリケーションに重要な建物、ロケーションメタデータ、タイムゾーン、アドレスなどを含むロケーションをインポートするには、この方法を選択することを推奨します。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

- ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、[メニュー (Menu)] アイコン (☰) をクリックし、[セットアップ (Setup)] > [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] を選択します。
- [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウは、[ロケーション (Locations)] タブが選択された状態で表示されます。
- ステップ 3** [ロケーション (Locations)] タブで、[ロケーションの追加 (Add Locations)] をクリックします。ロケーションがすでにインポートされ利用可能な場合は、[ロケーションのインポート (Import Locations)] オプションが表示されます。
- [建物の詳細のアップロード (Upload Building Details)] ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。
- ステップ 4** [Excelシートからの建物のインポート (Import buildings from Excel sheet)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [ロケーションの詳細のインポート (Import Location Details)] ウィンドウで、Microsoft Excel (.xlsx) ファイルをドラッグアンドドロップするか、[ここをクリックしてアップロード (Click here to upload)] をクリックして、インポートするビジネスロケーションの詳細を含む Microsoft Excel (.xlsx) ファイルをアップロードします。
- (注)
テンプレートがない場合は、[ロケーションの詳細のインポート (Import Location Details)] ウィンドウにあるリンクからテンプレートをダウンロードし、建物の詳細とともに正しい形式でアップロードできます。
- ステップ 6** [Next] をクリックします。
- [ロケーションの詳細のインポート (Import Location Details)] ウィンドウでは、左側の列に Microsoft Excel (.xlsx) ファイルのロケーション情報が、右側の列に既存のロケーションレベルおよびグループレベルの情報が表示されます。
- ステップ 7** [ロケーションの詳細のインポート (Import Location Details)] ウィンドウで、[CSVの列 (Column from CSV)] 列のインポートされたロケーションメタデータを、[リンク先 (Link to)] ドロップダウン下の対応する階層およびグループレベルにマッピングし、それに応じて、それぞれのロケーションメタデータを割り当てます。
- [リンク先 (Link to)] ドロップダウンで使用できるオプションは次のとおりです。
- **ロケーション情報 (Location Info)** : 国、市区町村、占有率、バンド、アドレス、タイムゾーンなどのロケーションのメタデータ情報に使用します。対応するメタデータ値も割り当てる必要があります。
 - **階層レベル (Hierarchy Level)** : Microsoft Excel (.xlsx) ファイルから [レベル (Level)] 列の値をマッピングするには、これを使用します。Microsoft Excel (.xlsx) ファイルには、複数の [レベル (Level)] 値を設定できます。Microsoft Excel (.xlsx) ファイルからのレベル値は、ロケーション階層の [階層レベル (Hierarchy Level)] としてマッピングされます。
- 階層レベルごとに、グループ化レベルの値を割り当てることができます。オプションは、[グループ化レベル1 (Grouping Level1)]、[グループ化レベル2 (Grouping Level2)]、および [グループ化レベル3 (Grouping Level3)] です。

Microsoft Excel (.xlsx) ファイルでは、**NYC1 Campus** を **レベル1**、**NYC2 Campus** を **レベル2** に設定できます。[ロケーションの詳細のインポート (Import Location Details)] ウィンドウでは、**レベル1** および **レベル2** を [リンク先 (Link to)] ドロップダウンリストの [階層レベル (Hierarchy Level)] にマッピングできます。**レベル1**の場合、グループ化値を [グループ化レベル1 (Grouping Level1)] に割り当て、**レベル2**の場合は [グループ化レベル2 (Grouping Level2)] を割り当てられます。

- **ロケーション名 (Location Name)** : Microsoft Excel (.xlsx) ファイルの [ロケーション (Location)] 列の値にマッピングするには、これを使用します。

(注)

[ロケーション名 (Location Name)] に値を割り当てる必要はありません。ロケーション名は Excel ファイルから直接取得されるため、変更することも、ヘッダー列にマッピングすることもできません。

- **ロケーションID (Location ID)** : ロケーション ID は、ロケーションのインポートが正常に完了すると自動生成されます。

ステップ 8 [Next] をクリックします。

[ロケーションのマージ (Merge Locations)] ウィンドウが表示されます。

- Cisco Spaces のロケーション階層が、Microsoft Excel (.xlsx) ファイルをインポートすることによって検出された新しいロケーションを含めるように更新されたことを示すメッセージ。
- [ロケーションのマージ (Merge Locations)] ウィンドウには、**Excel シートから建物をインポートする** メソッドを使用してインポートされた新しいロケーションの数とそのレベルが表示されます。
- [ロケーションのマージ (Merge Locations)] ウィンドウには、[CSVで見つかったロケーション (Locations found in CSV)]、[アクション (Actions)]、および [既存のロケーション (Existing Locations)] の 3 つの列が表示されます。
- 階層を確認し、[アクション (Action)] ドロップダウンリストを使用して必要なアクションを実行する必要があります。
- [ロケーションの検索 (Search Location)] フィールドを使用して、検索条件を入力し、ロケーション名を検索できます。

ステップ 9 [CSVで見つかったロケーション (Locations found in CSV)] で、プラス記号をクリックしてロケーションを展開します。

ステップ 10 [アクション (Actions)] ドロップダウンリストから、インポートしたロケーションを、右側に表示される既存のロケーション階層とマージするために必要なアクションを選択します。

次のオプションがあります。

- [新規作成 (Create New)] : インポートしたロケーションを既存のロケーション階層内の新しいロケーションとして作成する場合は、このオプションを選択します。
- [対象とマージ (Merge With)] : Microsoft Excel (.xlsx) ファイルからインポートされたロケーションが繰り返されており、そのロケーションがロケーション階層にすでに存在する場合は、このオプ

ションを選択します。ロケーションをマージすると元に戻せないため、このアクションは注意して実行することを推奨します。

- [スキップ (Skip)] : ロケーション階層へのロケーションのインポートをスキップする場合は、このオプションを選択します。ロケーションをスキップすると元に戻せないため、注意してこのアクションを実行することを推奨します。

(注)

既存のロケーション階層には次の機能があります。

- 既存のキャンパスまたは建物がない場合、新しくインポートされたロケーションが新しいエントリとして追加されます。
- 類似の名前のロケーションがある場合、新しいロケーションを既存のロケーションとマージできます。

ステップ 11 [Next] をクリックします。

[ロケーションのマージ (Merge Locations)] セクションに表示されるマージロケーションの更新を確認する必要があります。処理されたロケーションの数を表示できます。

ステップ 12 [Submit] をクリックします。

ロケーションの詳細が正しくアップロードされたことを示すメッセージが表示されます。

[デジタルマップの追加] (Add Digital Maps) をクリックして **デジタルマップを追加**するか、[ロケーションの表示 (View Locations)] をクリックしてロケーションを表示できます。

ステップ 13 [このウィンドウを閉じる (Close this window)] をクリックして [ロケーション (Locations)] タブに戻ります。

[ロケーション (Locations)] タブの [建物 (Building)] セクションには、名前、パス、フロア数、送信元などのロケーションの詳細が表示されます。[サマリー (Summary)] セクションには、建物、フロア、欠落しているロケーションメタデータ情報、および確認が必要なロケーションの詳細が表示されます。

Cisco Prime Infrastructure からのロケーションのインポート

[Prime Infrastructureからロケーションをインポート (Import locations from Prime Infrastructure)] オプションで、エクスポートファイルを使用して Cisco Prime Infrastructure から Cisco Spaces へロケーションを追加します。Cisco Prime Infrastructure からネットワーク階層をインポートし、ビジネスロケーションに接続できます。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

- ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、[メニュー (Menu)] アイコン (☰) をクリックし、[セットアップ (Setup)] > [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] を選択します。
- [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウは、[ロケーション (Locations)] タブが選択された状態で表示されます。
- ステップ 3** [ロケーション (Locations)] タブで、[ロケーションの追加 (Add Locations)] をクリックします。インポートされたロケーションがすでに利用可能な場合、[ロケーションをインポート (Import Location)] オプションが表示されます。
- [建物の詳細のアップロード (Upload Building Details)] ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。
- ステップ 4** [Prime Infrastructureからロケーションをインポート (Import locations from Prime Infrastructure)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。
- [ロケーションの詳細をインポート (Import Location Details)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [ロケーションの詳細をインポート (Import Location Details)] ウィンドウで、Cisco Prime Infrastructure マップファイルを .GZ ファイル (圧縮アーカイブファイル) としてドラッグアンドドロップするか、[ここをクリックしてアップロード (Click here to upload)] をクリックして、Cisco Prime Infrastructure マップ情報を含む .GZ ファイルをアップロードします。
- ステップ 6** [Next] をクリックします。
- ロケーションの詳細をインポート (Import Location Details)] には、マップデータが処理中であることを示すメッセージが表示されます。Map Service は、同じ処理を行うために時間がかかります。[最近のアクティビティ (Recent Activity)] セクションでマップデータの処理ステータスを確認できます。
- マップデータが正常に処理されたら、マップデータをロケーションとマージする必要があります。
- ステップ 7** [このウィンドウを閉じる (Close this window)] をクリックして、ウィンドウを閉じます。
- [ロケーション (Locations)] タブの [[建物 (Building)] セクションには、新しくインポートされたロケーションの詳細が表示されます。同じロケーション情報が Cisco Spaces ロケーション階層にも表示されます。
- Cisco Prime Infrastructure からのマップのインポートによってロケーション階層に新しいロケーションが追加されたことを示すアラートメッセージが [ロケーション (Location)] タブに表示されます。
- ステップ 8** [確認 (Review)] をクリックして確認し、必要なアクションを実行します。
- [ロケーションのマージ (Merge Locations)] ウィンドウが表示されます。
- Cisco Spaces のロケーション階層が、Cisco Prime Infrastructure マップのインポートによって検出された新しいロケーションを含めるように更新されたことを示すメッセージ。
 - [ロケーションのマージ (Merge Locations)] ウィンドウには、**Prime Infrastructureからのロケーションのインポート**方式を使用してインポートされた新しいサイトと建物の数が表示されます。
 - [ロケーションのマージ (Merge Locations)] ウィンドウには、[Prime マップからのロケーション (Locations from Prime Map)]、[アクション (Actions)]、および [既存のロケーション (Existing Locations)] の 3 つの列が表示されます。

- 階層を確認し、[アクション (Action)] ドロップダウンリストを使用して必要なアクションを実行する必要があります。
- [ロケーションの検索 (Search Location)] フィールドを使用して、検索条件を入力し、ロケーション名を検索できます。

ステップ 9 [Primeマップからのロケーション (Locations from Prime Map)] で、プラス記号をクリックしてロケーションを展開します。

ロケーション階層には、キャンパス、建物、およびフロアが含まれます。

ステップ 10 [アクション (Actions)] ドロップダウンリストから、インポートしたロケーションを、右側に表示される既存のロケーション階層とマージするために必要なアクションを選択します。

次のオプションがあります。

- **対象とマージ (Merge With)** : Cisco Prime Infrastructure からインポートされたロケーションが繰り返されており、そのロケーションがロケーション階層にすでに存在する場合は、このオプションを選択します。ロケーションをマージすると元に戻せないため、このアクションは注意して実行することを推奨します。
- **削除 (Delete)** : インポートしたロケーションを既存のロケーション階層から削除する場合は、このオプションを選択します。ロケーションを削除すると元に戻せないため、このアクションは注意して実行することを推奨します。
- **新規作成 (Create New)** : 既存のロケーション階層に新しいロケーションを作成または追加する場合は、このオプションを選択します。
- **受諾 (Accept)** : Cisco Prime Infrastructure からインポートされたロケーションを、既存のロケーション階層と同様に受け入れる場合は、このオプションを選択します。

(注)

既存のロケーション階層には次の機能があります。

- 既存のキャンパスまたは建物がない場合、新しくインポートされたロケーションが新しいエントリとして追加されます。
- 類似の名前のロケーションがある場合、新しいロケーションを既存のロケーションとマージできます。

ステップ 11 [Next] をクリックします。

[ロケーション (Locations)] セクションに表示されるマージロケーションの更新を確認する必要があります。処理されたロケーションの数を表示できます。

ステップ 12 [Submit] をクリックします。

ロケーションの詳細が正しくアップロードされたことを示すメッセージが表示されます。

[デジタルマップの追加] (Add Digital Maps) をクリックして**デジタルマップを追加**するか、[ロケーションの表示 (View Locations)] をクリックしてロケーションを表示できます。

ステップ 13 [このウィンドウを閉じる (Close this window)] をクリックします。

[ロケーション (Locations)] タブの [建物 (Building)] セクションには、名前、パス、フロア数、送信元などのロケーションの詳細が表示されます。

[サマリー (Summary)] セクションには、建物、フロア、欠落しているロケーションメタデータ情報、および確認が必要なロケーションの詳細が表示されます。

Cisco Catalyst Center からのロケーションのインポート

DNA Centerからのロケーションのインポート (**Import locations from DNA Center**) オプションを使用して、Catalyst Center からロケーションを追加します。Cisco Spaces を Catalyst Center に接続でき、Catalyst Centerで定義されたすべてのサイトまたは建物が Cisco Spaces と同期されます。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ 2 Cisco Spaces ダッシュボードで、[メニュー (Menu)] アイコン (☰) をクリックし、[セットアップ (Setup)] > [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] を選択します。

[ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウは、[ロケーション (Locations)] タブが選択された状態で表示されます。

ステップ 3 [ロケーション (Locations)] タブで、[ロケーションの追加 (Add Locations)] をクリックします。ロケーションがすでにインポートされ利用可能な場合は、[ロケーションのインポート (Import Locations)] オプションが表示されます。

[建物の詳細のアップロード (Upload Building Details)] ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。

ステップ 4 [DNA Centerからのロケーションのインポート (Import locations from DNA Center)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。

Catalyst Center からロケーションをインポートするには、Catalyst Center マップを Cisco Spaces と統合する必要があります。

ステップ 5 (オプション) [DNA Centerのマップの統合方法を表示 (View How to Integrate DNA Center Maps)] をクリックします。

[Cisco DNA Centerの統合 (Cisco DNA Center Integration)] ウィンドウが表示されます。

Cisco Spaces はマップ同期のために Catalyst Center と統合され、デバイスのロケーションの更新が Catalyst Center に提供されます。Cisco Spaces を Catalyst Center と統合するには、[トークンの作成 (Create Token)] をクリックしてトークンを作成し、Catalyst Center でトークンを構成します。

(注)

Catalyst Center での Cisco Spacesの統合機能は、一部のユーザーが使用できます。追加のサポートについては、[Cisco Spaces サポートチーム](#) にお問い合わせください。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

[ロケーションの詳細をインポート (Import Location Details)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 指示に従って Catalyst Center に接続します。

ステップ 8 [完了 (Finish)] をクリックします。

[ロケーション (Locations)] タブの [[建物 (Building)] セクションには、ロケーションの詳細が表示されます。[サマリー (Summary)] セクションには、建物、フロア、欠落しているロケーションメタデータ情報、および確認が必要なロケーションの詳細が表示されます。

Cisco Merakiからのロケーションのインポート

[Meraki からのロケーションのインポート (Import locations from Meraki)] オプションを使用して、Cisco Meraki からロケーションを追加します。Cisco Meraki を展開している場合は、この方法を使用して Cisco Meraki Cloud アカウントに接続し、ネットワーク階層、マップ、アクセスポイント、Meraki ビデオデバイスを同期します。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ 2 Cisco Spaces ダッシュボードで、[メニュー (Menu)] アイコン (☰) をクリックし、[セットアップ (Setup)] > [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] を選択します。

[ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウは、[ロケーション (Locations)] タブが選択された状態で表示されます。

ステップ 3 [ロケーション (Locations)] タブで、[ロケーションの追加 (Add Locations)] をクリックします。ロケーションがすでにインポートされ利用可能な場合は、[ロケーションのインポート (Import Locations)] オプションが表示されます。

[建物の詳細のアップロード (Upload Building Details)] ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。

ステップ 4 [Merakiからロケーションをインポート (Import locations from Meraki)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。

[ロケーションの詳細をインポート (Import Location Details)] ウィンドウが表示されます。

Cisco Meraki からロケーションをインポートするには、Cisco Meraki を Cisco Spacesに接続する必要があります。

- ステップ5** (オプション) [Merakiの統合方法の表示 (View How to Integrate Meraki)] をクリックして、手順を表示します。
- ステップ6** [ロケーションの詳細をインポート (Import Location Details)] ウィンドウで、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ7** Cisco Meraki の接続手順を読み、[次へ (Next)] をクリックします。
- [Connect your wireless network] ウィンドウが表示されます。このオプションを使用して Cisco Meraki に接続できます。
- ステップ8** すでに接続している場合は、ロケーション階層を使用してロケーションを追加します。

手動によるロケーションの追加

Microsoft Excel (.xlsx) ファイルまたはネットワークマップをインポートせずに、[手動でのロケーションの追加 (Add locations manually)] オプションを使用して、ルートロケーションの直下に独立した建物を追加します。

手順

- ステップ1** Cisco Spaces にログインします。
- ステップ2** Cisco Spaces ダッシュボードで、[メニュー (Menu)] アイコン (☰) をクリックし、[セットアップ (Setup)] > [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] を選択します。
- [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウは、[ロケーション (Locations)] タブが選択された状態で表示されます。
- ステップ3** [ロケーション (Locations)] タブで、[ロケーションの追加 (Add Locations)] をクリックします。ロケーションがすでにインポートされ利用可能な場合は、[ロケーションのインポート (Import Locations)] オプションが表示されます。
- [建物の詳細のアップロード (Upload Building Details)] ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。
- ステップ4** [手動でのロケーションの追加 (Add locations manually)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。

図 3: ロケーションの追加

Add Location
×

Please enter the location details

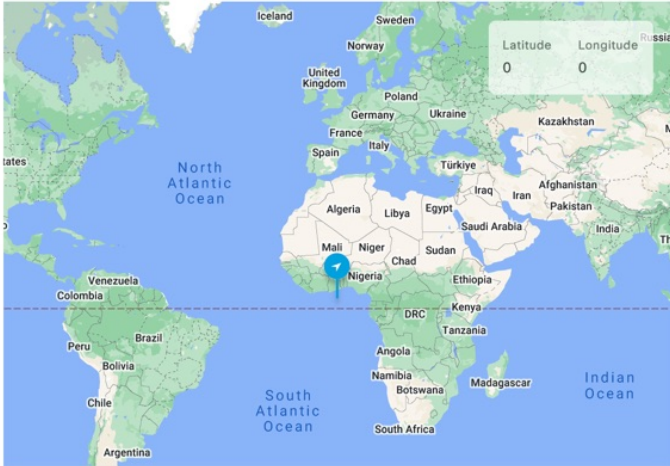
Location Name
Enter Location Name

Brand
Enter Brand

Total Area
Enter Area

Max Capacity
Enter Maximum Capacity

Address



Previous
Add

ステップ 5 [ロケーションの追加 (Add location)] ウィンドウで、次のロケーションの詳細を入力して新しいロケーションを追加します。

- **ロケーション名 (Location Name)** : 新しいロケーションの名前。
- **ブランド (Brand)** : 新しいロケーションのブランド。
- **総面積 (Total Area)** : 新しいロケーションの総面積詳細。
- **最大キャパシティ (Max Capacity)** : 新しいロケーションの最大キャパシティ情報。
- **アドレス (Address)** : 新しいロケーションのアドレス。アドレスを手動で入力するか、マーカーをドラッグして、右側に表示されるマップからアドレスを選択できます。
- **タイムゾーン (Time Zone)** : ドロップダウンリストでタイムゾーンを選択します。
- **緯度 (Latitude)** : 新しいロケーションの緯度。
- **経度 (Longitude)** : 新しいロケーションの経度。

ステップ 6 [Add] をクリックします。

新しいロケーションが追加されたことを示す成功メッセージが表示されます。手動でロケーションを追加する場合は、[[別のロケーションの追加 (Add Another Location)] をクリックします。

ステップ 7 [Done] をクリックします。

[ロケーション (Locations)] タブの [建物 (Building)] セクションには、ロケーションの詳細が表示されます。[サマリー (Summary)] セクションには、建物、フロア、欠落しているロケーションメタデータ情報、および確認が必要なロケーションの詳細が表示されます。

ロケーション情報の更新

インポートされたロケーションのロケーションメタデータが欠落している場合、[ロケーション (Locations)] タブにアラートメッセージが表示されます。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ 2 Cisco Spaces ダッシュボードで、[メニュー (Menu)] アイコン (☰) をクリックし、[セットアップ (Setup)] > [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] を選択します。

[ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウは、[ロケーション (Locations)] タブが選択された状態で表示されます。

ステップ 3 [必須ロケーション情報 (Essential Location Info)] フィールドの横にある [建物 (Buildings)] セクションで、[アラート (Alert)] アイコンをクリックして、欠落しているロケーションメタデータを更新します。

[ロケーション情報の更新 (Update Location Info)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [ロケーション情報の更新 (Update Location Info)] ウィンドウで、必要に応じて次のロケーションの詳細を更新します。

- **ロケーション名 (Location Name)** : 新しいロケーションの名前。
- **ブランド (Brand)** : 新しいロケーションのブランド。
- **総面積 (Total Area)** : 新しいロケーションの総面積詳細。
- **最大キャパシティ (Max Capacity)** : 新しいロケーションの最大キャパシティ情報。
- **アドレス (Address)** : 新しいロケーションのアドレス。アドレスを手動で入力するか、マーカーをドラッグして、右側に表示されるマップからアドレスを選択できます。
- **タイムゾーン (Time Zone)** : ドロップダウンリストでタイムゾーンを選択します。
- **緯度 (Latitude)** : 新しいロケーションの緯度。
- **経度 (Longitude)** : 新しいロケーションの経度。

ステップ 5 [Save] をクリックします。

場所を確認

[ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウには、インポートされたロケーション階層を確認する必要がある場合にアラートメッセージが表示されます。場所を確認し、必要なアクションを実行する必要があります。

手順

ステップ 1 [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウで、[プレビュー (Preview)] をクリックしてロケーションレビューを表示し、続行します。

[ロケーションの確認 (Review Locations)] ウィンドウには、ロケーションのインポート元となるすべてのソース (Cisco Meraki や Catalyst Center など) が表示されます。各ロケーションでインポートされたサイト、建物、およびキャンパスの数を表示することもできます。

ステップ 2 確認する送信元のロケーションを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

[ロケーションの確認 (Review Locations)] ウィンドウには、左側の列に選択した送信元のインポートされたロケーション階層レベルが、右側の列に既存の接続先ロケーション階層レベルが表示されます。特定のロケーションを検索するには、[ロケーションの検索 (Search Locations)] フィールドを使用します。

ステップ 3 [アクション (Action)] ドロップダウンリストにあるオプションを使用し、推奨アクションを選択して、送信元ロケーション階層の各レベルを、右側の列の関連する接続先ビジネス階層レベルとマージします。

デフォルトでは、Cisco Spaces はインポートされたロケーション階層を確認するためのいくつかのアクションを推奨します。使用可能なアクションは、マージ、承認、新規作成、および削除です。

- 送信元ロケーション階層で最上位ノードに選択したアクションは、下位のノードに自動的に順次適用されます。
- キャンパスノードの下のレベルが関連する接続先のビジネス階層レベルとすでにマージされている場合、送信元ロケーション階層からそのキャンパスノードを削除することはできません。
- 送信元ロケーション階層の建物を接続先のビジネス階層のキャンパスにマージすることはできません。
- 送信元ロケーション階層のサイトを、接続先のビジネス階層のキャンパスにマージできます。
- 送信元ロケーション階層の名前が Cisco Spaces ロケーション階層で使用可能なビジネス階層と一致する場合、Cisco Spaces は一致する接続先レベルを自動的に表示し、マージアクションを続行します。
- 送信元ロケーション階層が新しい場合は、作成アクションを選択すると、Cisco Spaces ロケーション階層に新しいビジネス階層が自動的に作成されます。

ステップ 4 [既存のロケーション (Existing Locations)] ドロップダウンリストから、関連する接続先レベルを選択し、Cisco Spaces ロケーション階層で使用可能なビジネス階層を使用して、任意の送信元ロケーションからインポートされたロケーション階層をマージして統合します。

[既存のロケーション] ドロップダウンリストには、Cisco Spaces ロケーション階層で使用可能なすべての接続先ノードが表示されます。ドロップダウンリストで、ビジネス階層のインポート元を表示できます。

ステップ 5 [Next] をクリックします。

[ロケーションのマージ (Merge Locations)] ウィンドウには、関連する分析データに関して、アクションの概要とその意味が表示されます。続行する前に、このアラート情報を確認することを推奨します。

(注)

削除対象として選択したロケーションに、関連付けられたルールが含まれている場合、削除アクションを続行できません。アクションを見直し、それに応じてマージ設定を更新する必要があります。

削除対象として選択したロケーションに、関連付けられたレポートが含まれている場合は、削除アクションを続行できます。ロケーションがマージされた後に、レポートが再度生成されます。

ステップ 6 [同意して続行 (Agree and Continue)] をクリックします。

選択したレビューアクションが処理され、ロケーションがレビュー済みとしてマークされます。送信元ロケーションレベルを、関連する接続先ノードとマージする場合、送信元ロケーションレベルのすべてのプロパティがビジネス階層の接続先ノードに適用されます。

ネットワークマップの追加

[ネットワークマップ (Network Maps)] タブを使用してネットワークマップを追加し、関連付けられたネットワークマップとともにロケーションを表示します。ロケーションをインポートできるのは、送信元にそのロケーションに関連付けられているネットワークマップがある場合のみです。現在、Cisco Prime Infrastructure、Catalyst Center、Cisco Meraki、および Cisco Connected Mobile Experiences にはネットワークマップが含まれています。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ 2 Cisco Spaces ダッシュボードで、[メニュー (Menu)] アイコン (☰) をクリックし、[セットアップ (Setup)] > [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] を選択します。

[ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ネットワークマップ (Network Maps)] タブをクリックします。

ステップ 4 [ネットワークマップの追加 (Add Network Map)] をクリックします。

[建物の詳細をアップロード (Upload Building Details)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 ネットワークマップを含む次の方法を使用してロケーションをインポートします。

- [Cisco Prime Infrastructure](#) からロケーションをインポート
- [Catalyst Center](#) からロケーションをインポート
- [Cisco Meraki](#) からロケーションをインポート

- Cisco CMX からロケーションをインポート
- 手動によるロケーションの追加

インポートされたロケーションの詳細は、[ロケーションとマップ (Locations and Maps)] の [ネットワークマップ (Network Maps)] タブの下に表示されます。

ステップ 6 [プレビュー (Preview)] をクリックして表示し、ロケーションレビューを続行します。詳細については、「[ロケーションを確認](#)」を参照してください。

ステップ 7 (オプション) [ネットワークマップ (Network Maps)] タブで、必要に応じて次のオプションを使用します。

- **エクスポート (Export)** : インポートされたビジネスロケーションの詳細を Microsoft Excel ファイル (.xls) にエクスポートします。[ダウンロード (Download)] をクリックすると、同じものをダウンロードできます。
- [最近のアクティビティ (Recent Activity)] : クリックすると、最近のアクティビティの詳細が表示されます。[最近のアクティビティ (Recent Activity)] スライドインウィンドウには、次の情報が表示されます。
 - ファイル名
 - ユーザ
 - タイプ
 - 時間
 - ステータス
- [フィルタ (Filter)] : クリックしてフィルタオプションを表示します。表示される [フィルタ (Filter)] スライドインウィンドウで、[ロケーション (Locations)] ドロップダウンリストからロケーションを選択し、必要なフィルタオプションを選択し、[選択 (Select)] をクリックして適用します。

Cisco CMX からのロケーションのインポート

[CMXからロケーションをインポート (Import locations from CMX)] オプションを使用して、Cisco CMX からロケーションをインポートします。ロケーションをインポートするには、Cisco CMX を Cisco Spaces とテザリングする必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ 2 Cisco Spaces ダッシュボードで、[メニュー (Menu)] アイコン (☰) をクリックし、[セットアップ (Setup)] > [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] を選択します。

[ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ネットワークマップ (Network Maps)] タブをクリックします。

ステップ 4 [ネットワークマップの追加 (Add Network Map)] をクリックします。

[建物の詳細のアップロード (Upload Building Details)] ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。

ステップ 5 [CMXからロケーションをインポート (Import locations from CMX)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。

[ロケーションの詳細をインポート (Import Location Details)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 (オプション) [CMXをテザリングする方法 (Learn how to tether CMX)] をクリックすると、Cisco CMX を Cisco Spaces とテザリングする手順が表示されます。詳細については、「[Cisco CMX Tethering](#)」を参照してください。

ステップ 7 [ロケーションの詳細をインポート (Import Location Details)] ウィンドウで、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 8 Cisco CMX を接続する手順を読み、[次へ (Next)] をクリックします。

[Connect your wireless network] ウィンドウが表示されます。このオプションを使用して Cisco CMX に接続します。

ステップ 9 すでに接続している場合は、ロケーション階層を使用してロケーションを追加します。

デジタルマップの追加

[デジタルマップ (Digital Maps)] タブを使用して、ロケーション階層内に建物のデジタルマップを追加します。フロアのコンピュータ支援設計 (CAD) ファイルをアップロードして、3D フロアプランに変換する必要があります。

[サマリー (Summary)] エリアには、デジタルマップがインポートされた建物の数、マップレビューが保留中の建物の数、およびエラーのある建物の数が表示されます。

[建物 (Buildings)] エリアには、利用可能なロケーションが表示されます。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ 2 Cisco Spaces ダッシュボードで、[メニュー (Menu)] アイコン (☰) をクリックし、[セットアップ (Setup)] > [ロケーションとマップ (Locations and Maps)] を選択します。

[ロケーションとマップ (Locations and Maps)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [デジタルマップ (Digital Maps)] タブをクリックします。

- ステップ4** [アクション (Actions)]列で、[デジタルマップの追加 (Add Digital Maps)]をクリックします。
[デジタルマップの追加 : DNAのサポート (Add Digital Map: Support DNA)]ウィンドウが表示されます。
- 表示される CAD ファイル (.dwg) またはベクター PDF の関連情報を読み取ります。
 - [続行 (Proceed)]をクリックします。
- ステップ5** アドレスを確認するには、次の手順を実行してから、[アドレスの確認 (Confirm Address)]をクリックします。
- ロケーションを選択するには、[検索 (Search)]フィールドに建物名を入力するか、マップを直接クリックすることでマーカーを配置します。
 - または、必要に応じて、マーカーをクリックしてドラッグし、マップ上のロケーションを調整します。
マップ上の建物のロケーションが正しいことを確認します。
- (注)
右側のパネルに表示されるマップからロケーションを選択する場合は、現在のロケーションを使用して地理座標を入力する権限を Cisco Spaces に付与する必要があります。
- ステップ6** デジタルマップに追加するフロアを選択し、[次へ (Next)]をクリックします。[フロア名 (FloorName)]の横にあるチェックボックスをオンにして、リストされているすべてのフロアを選択します。
- 続行する前に、すべてのフロアが対応するレベル番号と短縮名で正確にリストされていることを確認してください。レベル番号と短縮名は、フロアラベルに基づいて自動生成されます。この手順は、さまざまなサイネージのユースケースを有効にするために重要です。
- (オプション) 新しいフロアを追加するには、[新しいフロアの追加 (Add New Floor)]をクリックし、次の詳細を入力します。
- フロア名 (Floor Name)** : 新しいフロアの名前を入力します。
 - レベル番号 (Level Number)** : 新しいフロアのレベル番号を選択します。
 - 短縮名 (Short Name)** : 新しいフロアの短縮名を入力します。
- ステップ7** デジタルマップの生成に使用するソースファイルをアップロードします。指定されたアップロードセクションにファイルをドラッグアンドドロップするか、[添付ファイルのアップロード (Upload attachment)]をクリックしてローカルにあるファイルを参照してアップロードできます。
- [一括アップロード (Bulk Upload)]をクリックすると、CAD ファイルまたはベクトル化された PDF のアップロードを短時間で実行できます。
- [追加情報 (Additional Info)]セクションを活用して、アップロード情報を入力します。
- 変換するあらゆる要素のすべてのレイヤ (構造、家具、名前、IDなど) が含まれている CAD ファイルを使用することを推奨します。名前または ID を持つ要素のみがセンサーの割り当てに対応できます。
- (注)
- フロアごとに1つのCADファイルのみをアップロードします。相互参照(XREF)はサポートされていません。
 - サポートされているファイルタイプは、ZIP、AutoCAD 描画ファイル (DWG) 、 AutoCAD 描画相互変更ファイル (DXF) 、ポータブルドキュメントフォーマット (PDF) です。

ステップ 8 [Submit] をクリックします。

各 CAD ファイルとロケーションメタデータが処理され、マップがデジタル化されます。[デジタルマップ (Digital Maps)] タブにアラートメッセージが表示されます。

ステップ 9 [レビュー (Review)] をクリックします。

ステップ 10 [デジタルマップの確認 (Review Digital Maps)] ウィンドウで、確認する建物を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

デジタル化されたマップが表示されます。

ステップ 11 (オプション) フロアまたはスペースを選択し、必要に応じてクリックして更新します。

ポップアップウィンドウが表示され、名前を編集したり、タイプカテゴリを更新したりできます。

ステップ 12 [この建物を公開 (Publish this Building)] をクリックします。

デジタル化されたマップは公開され、Cisco Smart Workspaces、環境メトリックアプリケーションなど、他のアプリケーションで使用できます

Cisco Spaces ロケーション階層では、選択したロケーションについて、そのロケーションにデジタルマップがある場合、デジタルマップがデフォルトで表示されます。

変更を破棄する場合は、[この建物をスキップ (Skip this building)] をクリックします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。